



岩礁に群るる青鳩鑑真忌
 奥山源丘
 青葉潮信じ難きは己の死
 堤保徳
 担桶担ふ男の肩よ昭和の日
 有手勉
 ピストルで男撃つ役朧かな
 金子圭子
 朧なる夜空は大きな瞳
 野口美智子
 殺戮の止まぬ大地よ蝌蚪の水
 斉藤すみれ
 朧夜や桐たけ塑そに絹を木目込みる
 竹岡みち子
 青嵐に叫ぶごと立つ空也像
 水野星蘭
 椿寿忌や酢加減の良き青魚
 小伊藤美保子
 いつの間が一番星や芽出し肥
 堀川節子
 手作りのデモは六人芽吹く街
 田添博美
 芽吹きたる雪折れに日の慈母のごと
 町田愛子
 寺毎にちがふ砂利音花の京
 市川敬子
 *
 寝釈迦仏足裏宙と交信す
 芳川莞久子
 藍瓶にゆだねたる布昼蛙
 坂田寿美

起し絵や曙かかる日本橋
 岩上諒磨
 そめぐりは遡上にもがく我なるか
 伊藤由希子
 夏立つや正倉院の螺鈿琵琶
 桑原寿美子
 流離の裔父祖の恩なる土匂ふ
 大澤淳基
 でで虫が吸い取る壁のカルシウム
 高木忠雄
 おはよう花水木おやすみ花水木
 河合利枝
 青味返りや艾年の習い事
 北浦深
 赤子泣く鷺一斉の羽音なり
 長瀬絹代
 何時の世も笑ふに必死花辛夷
 土屋忠史
 御柱若き女性の肌のごとし
 関道子
 *
 楠若葉けふが一番きれいな
 森千恵子
 おぼろ夜の中心で読む手沢本
 石井紀美子
 荒浜や子供の日にて人絶えず
 二木暖
 五月つて握りこぶしを開くよう
 菊池理津子
 死顔の稽古なされと亀鳴けり
 島田謙吉